

養鶏に卵直売所・菓子・ 飲食を付加した経営改善

瀧田 稔

(有限会社瀧田養鶏場 代表取締役)



はじめに

弊社は平成9年に秋田県秋田市内で創業した「有限会社瀧田養鶏場」といい、養鶏業の他、同市内及び県内で「たまごの樹」という“たまご専門店”を3店舗経営しています。直近の平成30年度の売上高は3億2千万円であり、売上構成は、鶏卵卸1億1千万円、たまご専門店での卵が9千万円、菓子6千万円、レストラン1千6百万円、その他仕入れ商品等が4千4百万円。売り上げ割合は卸売48%、直営店50%、通販が2%で個人のお客様が5割となっています。

弊社の歴史

始まりは大張野大地の開拓でした。終戦後、青森県出身の初代当主瀧田勘吉が、満蒙開拓義勇軍の引揚者ととも現在秋田市河辺大張野地区に入植し、1人4町歩の山林を開拓しました。最初は小豆、大豆、野菜の生産、のちに酪農を始めたことが記録に残っています。

昭和40年ごろに、酪農経営から養鶏業に転換し100羽から生産を開始しました。その後生産羽数を1万羽に拡大し、同時に鶏糞を利用した長芋やゴボウ、ブロッコリー、白菜、キャベツ等を生産して、養鶏・野菜の複合経営を20数

年続けました。

平成7年、初代当主が急死した後、養鶏・野菜の複合経営から養鶏（採卵鶏）単独に切り替え、平成9年に有限会社瀧田養鶏場を設立しました。

平成に入ってから、養鶏業界の大型化、寡占化により、将来淘汰されるのではないかとという危機感から何らかの対策が必要になり、小規模経営でも生き残っている養鶏生産者をリサーチし、結論として卵、菓子を同時に販売する「卵専門店」の開店プロジェクトを平成10年に開始しました。

平成16年「たまごの樹」河辺店開店

瀧田養鶏場の直売部門として、平成16年に設立したのが「たまごの樹」です。

看板商品のシュークリームとプリンは、卵本来の旨味を生かした味わいが好評で、地元のお客様を中心に次第に人気が出て来ました。一方では、新鮮な卵や鶏肉を利用した加工品、卵関連商品の開発にも取り組み、たまご屋らしさを表現する商品として、地元秋田だけでなく全国の方々にもご愛願頂いています。

「たまごの樹」という名前は、卵を生産するうえで必要な飼料と関係があります。育ててい

る鶏には、よもぎ、海藻、広葉樹の樹液（木酢）、唐辛子、にんにく、珊瑚の化石などの餌を与えています。特に広葉樹の樹液（木酢）は卵の生臭さをなくし、甘みとコクを出すのに重要な役割をもっています。販売している卵は広葉樹の樹液という森の恵みをもらい、そのおいしさを出していることから「樹林の恩恵を受けた卵」。それは「樹のたまご」。そこから生き物は自然と常に繋がっている。そのような思いから「たまごの樹」と名付けました。

日本の気候風土にあった国産鶏種「もみじ」と「さくら」

私たちは卵を生産し販売していく中で、日本の農業を守り発展させていくにはどのようなことが大切かを考えるようになりました。そして日本人が食べる農産物は、国内で生産された安全で新鮮な食品を提供することが重要であるという結論に達したのです。

それまで国内で飼養されていた鶏はほとんどが外国鶏種でした。私たちは国内で鶏の育種改良をしている後藤孵卵場（岐阜県）のことを知り、そこで販売している国産鶏種の「もみじ」と「さくら」を育てその卵を販売することにしました。そして「もみじ」と「さくら」が産んだ卵を生卵として販売するだけでなく、より卵のおいしさを表現したいという思いから、お菓子やスイーツの取り組みを始めました。経験豊かな先輩たちに指導して頂きながら、昔から伝わる製法を大事にし、菓子作りに挑戦しています。毎日が試行錯誤の連続で、失敗もありましたが、卵という食材にこだわり納得のいくものだけをお客様に紹介していきたいと思っています。

2店舗目の追分店では卵とお菓子だけでなくレストランも

平成20年、潟上市天王に2号店（追分店）をオープンしました。地域からの出店の要望もありオープン初日には多数のお客様からご来店いただきました。「たまごの樹」追分店では、卵とお菓子だけでなく、卵料理を出すレストランも併設しています。特にオムライスは好評で追分地区以外の方からもご来店いただいております。

3店舗目の大曲店で県南に進出

平成24年、大仙市和合に3号店をオープンしました。大曲店では惣菜、クリスマスケーキ等を強化し、より生活密着型の店舗にしています。

生産設備の全自動化

「たまごの樹」の売上が順調に推移したことから、市場価格に左右されない企業体質が確立され、新たな投資環境も整ったことから、平成29年度に農林水産省のクラスター事業を活用した設備投資を行いました。主な内容は、農場生産羽数を3万羽から6万羽に拡大するための設備更新です。選別機は、ナベルMAP15000自動選卵選別機を導入しました。この設備は作業能率が上がるフロント作業方式で、これまでの手作業が解消され旧機種にはなかったヒビ検卵機、異常卵検査装置、紫外線殺菌装置、定重量設定機能などにより、商品の品質と安全性が高まりました。また、自社直営店で販売している20個の卵についても20個トレイ専用のリフター（特注）を使用することで自動パッキング後の工程についても対応可能となり、その結果、工程が統合でき、時間あたり生産性が向上しました。

また、鶏卵集計機能を搭載しており、成鶏舎にも生産管理システムを導入してこの選卵選別設備と連動させ、さらに検査工程の自動化のために導入した検査装置、集計機能機器とも連動させることで、生産ライン全体を一元管理しています。

育雛、育成、成鶏ケージシステムも更新を行いました。これに伴い、現在保有している育雛1棟、育成舎2棟、成鶏舎10棟の開放式鶏舎のうち旧鶏舎（7棟）を全自動システム鶏舎に更新しました。このシステム鶏舎は、旧鶏舎では対応できなかった給餌、除糞、集卵が全自動、糞乾燥装置付空調が自動制御され、また、生産管理システムを導入して各給餌、除糞、集卵、空調設備と連動させ、生産ライン全体を一元管理する事ができ、成鶏舎では各鶏舎をバーコンペアーで連結し、鶏糞は堆肥舎へ、卵はナベルMAP15000自動選卵選別機へ連動させます。育雛、育成、成鶏舎の生産設備を全自動化し、一元化することで人員が削減され、時間あたり生産性が飛躍的に向上しました。

顧客市場の動向（機会）と当社コンセプト

近年、消費者ニーズはロハス的志向の商品を好む傾向があり、鶏卵製品においてもその傾向は現れています。当社においては、今後、健康、いやし、エコ、環境、安心、安全をキーワード

に消費者に好まれるような商品の提供を目指していきたいと思っています。

企業理念 「幸福」「共生」「尊厳」

従業員が50人近くになると「私たちは何のために働いているのか」、「私たちの社会的存在意義は何か」という企業全体の意思統一が必要になり、以下の企業理念を掲げました。

- 一、幸福 卵を通じてお客様に幸せを届ける。
- 二、共生 対立より協力を優先する。
- 三、尊厳 個々人の長所を伸ばし、全ての従業員の意思を尊重する。

この企業理念の下に、今後更なる発展を続けられるように邁進していきたいと考えております。



(鶏舎外観と国産鶏種「もみじ」)

会社概要

1 会社名	有限会社瀧田養鶏場	6 会社設立	1997(平成9)年
2 代表者名	代表取締役 瀧田 稔	7 資本金	800万円
3 所在地	〒019-2632 秋田市河辺大張野字道ノ下72	8 年商	3億2千万円(2018年9月期)
4 TEL/FAX	018-882-3113	9 従業員	50名(2018年9月末現在)
5 U R L	http://www.tamagonoki.jp	10 経営理念	「幸福」「共生」「尊厳」